

地域人材ネット

住民、事業者を主体としたDMOによる
持続可能で自立した地域活性・再生化

山田 桂一郎 (やまだ けいいちろう)

JTIC. SWISS 代表



○ 登録者情報

所在地

スイス: Zermatt 日本: 東京都千代田区

略歴

- ・1987年 スイス・ツエルマット観光局 日本人対応インフォメーション、セールスプロモーション担当
- ・1992年 JTIC.SWISS(日本語インフォメーションセンター)設立
- ・1996年 環境省環境カウンセラー(事業者部門)として登録
スイス・ヴァレー州観光局日本・アジア向けプロモーション担当
- ・1999年 Mt.6(ベスト・オブ・ザ・クラシック・マウンテンリゾート)
環境政策とCS(顧客満足度推進)顧問就任
- ・2003年 環境省環境カウンセラー(市民部門)として登録
- ・2004年 特定非営利活動法人 日本エコツーリズム協会 理事
- ・2004年 まちづくり観光研究所主席研究員
- ・2005年 内閣府、国土交通省、農林水産省「観光カリスマ百選」認定
- ・2006年 日本エコウォーク環境貢献推進機構 委員

著書・論文等

- ・「観光文化vol.132」(財)日本交通公社
- ・「環境市民とまちづくり 3 地域共生編」編集代表 進士五十八
- ・DBJ Tokai Report VOL.2 東海地域における観光の振興に向けて2) ~「学び」の視点からの提言~ 日本政策投資銀行東海支店
- ・HRIレポート 特集「観光が地域を救う! 地域にお金が回る仕組みづくり」
- ・日経研月報4月号2005年 財団法人日本経済研究所
- ・新聞連載トラベルニュース「NATO(No Action Talk Only)廃絶!」トラベルニュース社

○ 住民、事業者を主体としたDMOによる持続可能で自立した地域活性・再生化

取組の内容

1990年代後半からスイスと日本を月一ペースで往復しながら各地の地域振興・観光振興に取り組んでいます。これまでの実績と評価で2005年には内閣府・国土交通省・農林水産省から「観光カリスマ」の認定を頂きました。私自身が関わる多くの振興策や各プロジェクトの進め方は、住民、事業者が自ら気づき、考え、覚悟を持って実行・実践を繰り返し、自ら設定した目的と目標を達成することで明確な結果を出す事です。その為には地域特性に合った仕組みと組織化が必要となります。特に自立と持続可能な観光地を目指すならば、DMO(Destination Management Organization)による地域経営の推進体制を構築します。そして、地域を活性化させるには地域利潤の追求を最優先とする事業を進めなくてはなりません。個々の利益を優先する事業者に対しては、誰もが賛同出来る地域のプラットフォームが必要であり、そのビジョン、テーマ、コンセプトの共有と多くのステイクホルダーたちの相互連携と連動、協働体制が成果・結果を生み出します。そして、成功確立を高める為にも最初に徹底した現地調査(現状認識、マーケットとのギャップ、マネーフロー、CS推進等)を行う事を基本としています。その後、地域経営の「戦略」を決め、戦略から導き出した「戦術」を基に事業化を進めます(釣る魚を明確に決めてから竿と仕掛けを準備する)。これまでも売上、利益、集客、誘客、リピーター化、宿泊化、延泊化等それぞれの増加に結び付く結果を出してきましたが、肝心なのは事業の最終ゴール、結果の形をしっかりと決めておく事(時限的にも)です。そして、例えば「観光地」ならば「感幸地」と文字にでも表せるように、住民の生活満足度を上げる事やお客様に真の豊かさを感じて頂く事を最優先に考えて実践することです。

実績

(※2007~2009年度の主な実績と成果。2006年度以前は省略。他にも実績あり)

- ・2007年 三重県鳥羽市「海島遊民くらぶ(顧問)」環境省エコツーリズム大賞優秀賞を受賞。この年の2年間で売上が実質10倍増となる。
- ・2007年 北海道洞爺湖サミット地元受け入れ対応の講師としてCS・おもてなしセミナーの実施。
- ・2008年 国土交通省・観光庁「訪日観光接遇セミナー」講師として全国各地でセミナー実施。
- ・2008年 日本エコツーリズム協会全国大会(北海道洞爺湖と10周年東京大会)実行委員として参画。
- ・2008年 Mt. 6(クラシック マウンテン リゾート)のCS推進、環境、インバウンドへの取り組み推進。
- ・2008年 国土交通省・観光庁「生徒・児童によるボランティアガイド普及促進事業」の制度化。
- ・2008年 鳥取県皆生温泉旅館組合青年部のエコツーリズム活動が環境省日本エコツーリズム大賞特別賞を受賞。その実践活動と商品が全旅連青年部のグランプリと優秀賞の受賞で二冠を達成する。
- ・2008年 北海道弟子屈町「てしかがえこまち推進協議会(観光を機軸とするまちづくり組織)」の設立。そして、各部会活動から企画された着地型商品(2泊3日:3万7千円のツアー販売等)、地場産品・グルメレシピの企画・商品化(完全地産池消型の摩周恵みのラーメン、じゃがいもレシピカレンダー等)、ポータルサイトの設置(アクセス数が10倍)等を実施。
- ・2009年 大分県由布市「由布院観光総合事務所」「(財)ゆふいん人材育成財団」が中心となった「エコウォーク」の商品化と運営組織化。また、同時に「子どもボランティアガイド」育成とプログラムを催行する。この事業化で由布院の観光推進のための新しいプラットフォーム化に成功。
- ・2009年 北海道弟子屈町「てしかがえこまち推進協議会(アドバイザー)」から立ち上げた着地型旅行会社「ツーリズムてしかが」が初年度から黒字経営に成功。また、弟子屈町の連泊率が上がる。
- ・2009年 三重県鳥羽市「海島遊民くらぶ(顧問)」環境省エコツーリズム大賞の最優秀賞を受賞。
- ・2009年 鳥取県皆生温泉 & 皆生未来開発戦略アドバイザーとして着地型商品「スリミングステイ」企画・運営、商品化の強化とインバウンド情報発信。
- ・2009年 和歌山県地域づくりアドバイザーとして東牟婁郡地域内での「熊野リーダー」養成講座にて、地域のビジョンとミッションを目指す実践リーダーの育成と組織化。

工夫した点や苦勞した点

地域振興の問題・課題は「エゴと利害関係」に集約されます。誰もが賛同出来るプラットフォームと推進体制・組織化をそれぞれの地域特性に合った形で構築しながら住民・事業者自らが主体となって地域全体の最適化を進めることが最重要ポイントです。

ひとことPR

官が主体となった「住民参加」型ではなく、住民・事業者主体の「行政参加」型です！地域振興を推進する上で必要なプラットフォームは「官」でも「民」でもなく「公」をベースとした誰もが賛同出来るビジョン、テーマ、コンセプトを持てるかどうかで決まります。そして、目的(最終結果の形)と目標(長・中・短期的に達成する数字目標)を明確にした上で後は実行あるのみです。

○ 参考

取組の分類

地域人材ネットでは、登録者の取組を11の政策分野に分類しています(複数の分野に該当するものもあります)。

○	1	地域経営改革	7	まちなか再生
	2	地場産品発掘・ブランド化	8	若者自立支援
	3	少子化対策	9	安心・安全なまちづくり
	4	企業立地促進	10	環境保全
	5	定住促進	11	その他()
○	6	観光振興・交流		

関連ホームページ

観光カリスマ	http://www.mlit.go.jp/kankocho/shisaku/iinzai/charisma/mr_yamada.html
スイスなるほど生情報	http://plaza.rakuten.co.jp/iticswiss/
まちづくり観光研究所	http://www.travelnews.co.jp/machiken/member/yamada.html

連絡先

メールアドレス	eco_kei[アットマーク]yahoo.co.jp	その他	
---------	----------------------------	-----	--

※メールを送る際は[アットマーク]を『@』に変えてください。

戻る